

【テーマ別方針】

防災まちづくり方針

■ 基本的な考え方

1. 今のまちの魅力を活かし、震災後も次世代へ魅力を継承できる『防災まちづくり』の推進

- 防災まちづくりは、震災被害を最小限にするためにソフト・ハード両面で行う事前準備
- 防災のために大きくまちをつくり変えることを前提とせず、今のまちの魅力を活かし継承することを前提に、今のまちを災害に強い構造に改善していく防災まちづくりを進める
- そのため、地区全体の防災性の向上に寄与するような、防災効果の高い整備を、優先的に進め、早急に最低限の安全性を確保する

2. 震災が起ころっても、自宅で住み続けられる『防災まちづくり』の推進

- 震災後速やかに、今のまちの魅力を取り戻すためには、復興主体となる地域住民が堀切にすることが大切である。仮設住宅の建設や避難所生活をはじめから前提とせず、地元住民が自宅で住み続けることができるような防災まちづくりを進める。

3. いざという時は、逃げられる・救出できる『防災まちづくり』の推進

- 万が一、自宅が被災した場合でも、安全な避難、円滑な消防・救出活動等が可能なように、防災まちづくりを進める。

■方針

1. 地区全体にとって大切な防災拠点づくりを進める

→震災時に、応急・復興対策の拠点として重要な3つの拠点について、その役割に応じた防災拠点の形成を図る。

- 堀切菖蒲園駅周辺：地域内外から人・物が集まる拠点としての機能の強化
- ウェルピアかつしか：支援物資等の供給の拠点としての機能の強化
- 堀切船着場：支援物資等の受け入れ拠点としての機能の強化

2. 大切な防災拠点をつなぐ、大きな骨格とネットワークづくりを進める

→重要な3つの防災拠点同士をつなぐとともに、各拠点から各地域へ、円滑に人、車両、物資が流れる軸として、その機能を果たせる道路空間を確保する

- 堀切菖蒲園駅周辺 ⇄ ウェルピアかつしか
 - ・駅からの人の流れや物資輸送、広域避難等を支える機能（歩道、幅員確保等）
 - ・まちを東西にブロック化する防災機能（沿道不燃化、沿道への水利確保等）
- ウェルピアかつしか ⇄ 堀切船着場
 - ・船着場からの物資輸送や広域避難等を支える機能（歩道、幅員確保等）
 - ・まちを南北にブロック化する機能（沿道不燃化、沿道への水利確保等）
- 堀切船着場 ⇄ 堀切菖蒲園駅周辺
 - ・船着場や駅からの人や物の流れを支える機能
 - ・地区内の防災道路としての機能（いざというとき緊急車両が入れる整備）

3. ブロック(まちのまとまり)単位で、防災課題に応じた防災まちづくりを進める

→3つの防災拠点をつなぐ道路や、平和橋通りなどの幹線道路を骨格として、それらに囲まれたまちのまとまり（ブロック）を単位として捉える。

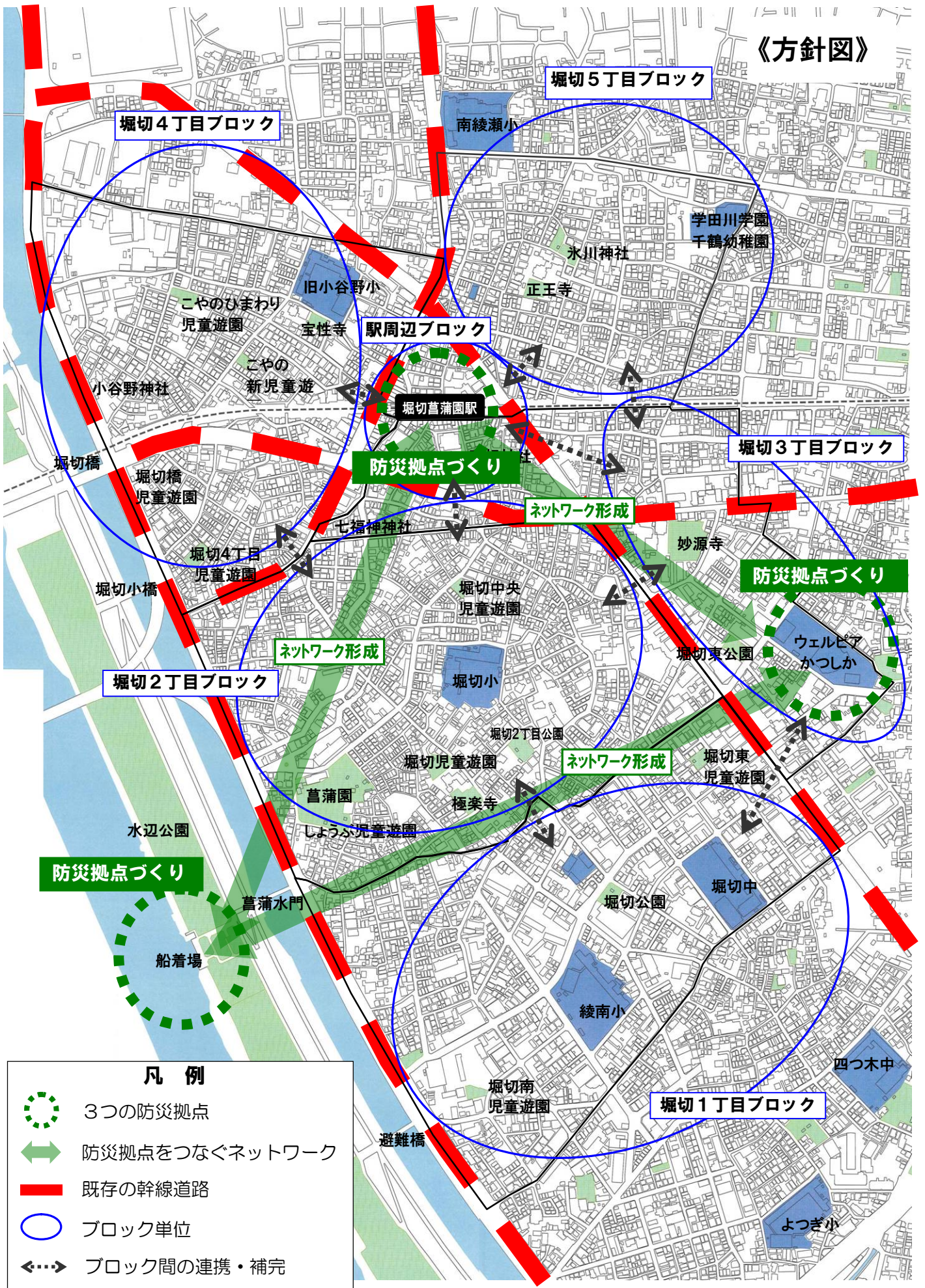
→基本的には、ブロックごとの課題に応じて、外に被害を出さない・もらわないための防災まちづくりを進める。

→そのために、ブロックごとの防災拠点、公園・広場、道路のネットワークづくりを進める。






4. ブロック(まちのまとまり)が担う役割を意識した防災まちづくりを進める

→堀切地区全体で見たときに、各ブロックが担う防災まちづくり上の役割と、避難者対策など震災時のブロック間の連携・補完を見据えた整備と体制づくりを進める。

《方針図》



凡例

-  3つの防災拠点
-  防災拠点をつなぐネットワーク
-  既存の幹線道路
-  ブロック単位
-  ブロック間の連携・補完

■ブロック単位の防災まちづくりの課題

●堀切1丁目ブロック

ゾーン①：安全な市街地として、地域の安全拠点の形成を図る

建物づくり：・共同住宅や町工場を主体とした良好な街並みの形成

道路づくり：・住宅地のシンボルとしての四季のみちの魅力化（緑化、沿道の景観形成）
・綾南小、堀切中につながる南北動線の確保

その他：・綾南小、堀切中の防災拠点機能の強化（周辺市街地からの避難者対策等）
・綾南小、堀切中、よつぎ小、四つ木中の避難者対策の連携

ゾーン②：密集市街地の改善を図り、ゾーン①とあわせて、地域の安全拠点の形成を図る

建物づくり：・戸建て住宅の耐震化・不燃化

・建替え困難地区における建替え更新の推進

道路づくり：・消防車・救急車が通れる地区内防災道路の確保

その他：・公園・広場等のオープンスペースの整備

●堀切2丁目ブロック

ゾーン③：堀切のまちの魅力の核となる既存の骨格を活かしながら、防災性の向上を図る

建物づくり：・戸建て住宅の耐震化・不燃化

・建替え困難地区における建替え更新の推進

道路づくり：・消防車・救急車が通れて、川、幹線道路、堀小、菖蒲園、既存の公園、空地等をネットワークする地区内防災道路の整備

・地区内防災道路へアクセスできる細街路の防災性向上（建替えにあわせた拡幅、沿道のブロック塀の生垣化、落下物対策）

その他：・駐車場や社寺境内等の防災空地としての活用検討（通り抜け道確保など）

ゾーン④：堀切のまちの魅力の核となる既存の骨格を活かしながら、防災性の向上を図る。

建物づくり：・戸建て住宅の耐震化・不燃化

・建替え困難地区における建替え更新の推進

道路づくり：・消防車・救急車が通れる地区内防災道路の確保

・地区内の防災道路へアクセスできる細街路の防災性向上（建替えにあわせた拡幅、沿道のブロック塀の生垣化、落下物対策）

その他：・堀小への避難動線の確保

・公園・広場等のオープンスペースの整備

●堀切3丁目ブロック

ゾーン⑤：安全な市街地として、地域の安全拠点の形成を図る

建物づくり：・共同住宅を主体とした良好な街並みの形成

・共同建替えによる建物更新の推進

道路づくり：・四季のみちの魅力化（緑化、沿道の景観形成）

その他：・ウェルピアへの周辺市街地からの避難者対策、物資供給拠点整備

ゾーン⑥：ゾーン⑤とあわせて、地域の安全拠点の形成を図る

建物づくり：・戸建て住宅の耐震化・不燃化

・建替え困難地区における建替え更新の推進

道路づくり：・消防車・救急車が通れる地区内防災道路の確保

・桜並木みちの防災機能強化、魅力向上

・地区内の防災道路へアクセスできる細街路の防災性向上（建替えにあわせた拡幅、沿道のブロック塀の生垣化、落下物対策）

・鉄道高架化による南北動線の確保

その他：・公園・広場等のオープンスペースの整備

●堀切4丁目ブロック

ゾーン⑦：堀切のまちの魅力の核となる既存の骨格を活かしながら、防災性の向上を図る。

- 建物づくり：
 - ・戸建て住宅の耐震化・不燃化
 - ・建替え困難地区における建替え更新の推進
- 道路づくり：
 - ・旧小谷野小へつながる地区内防災道路の確保
- その他：
 - ・鉄道高架化による南北動線の確保

ゾーン⑧：旧小谷野小を拠点した防災まちづくりを進める

- 建物づくり：
 - ・戸建て住宅の耐震化・不燃化
 - ・建替え困難地区における建替え更新の推進
- 道路づくり：
 - ・消防車・救急車が通れて、川、幹線道路、旧小谷野小をネットワークする地区内防災道路の整備
- その他：
 - ・旧小谷野小の防災拠点機能の強化
 - ・旧線路敷き跡の空地の活用検討

●堀切5丁目ブロック

ゾーン⑨：密集市街地の改善を図る

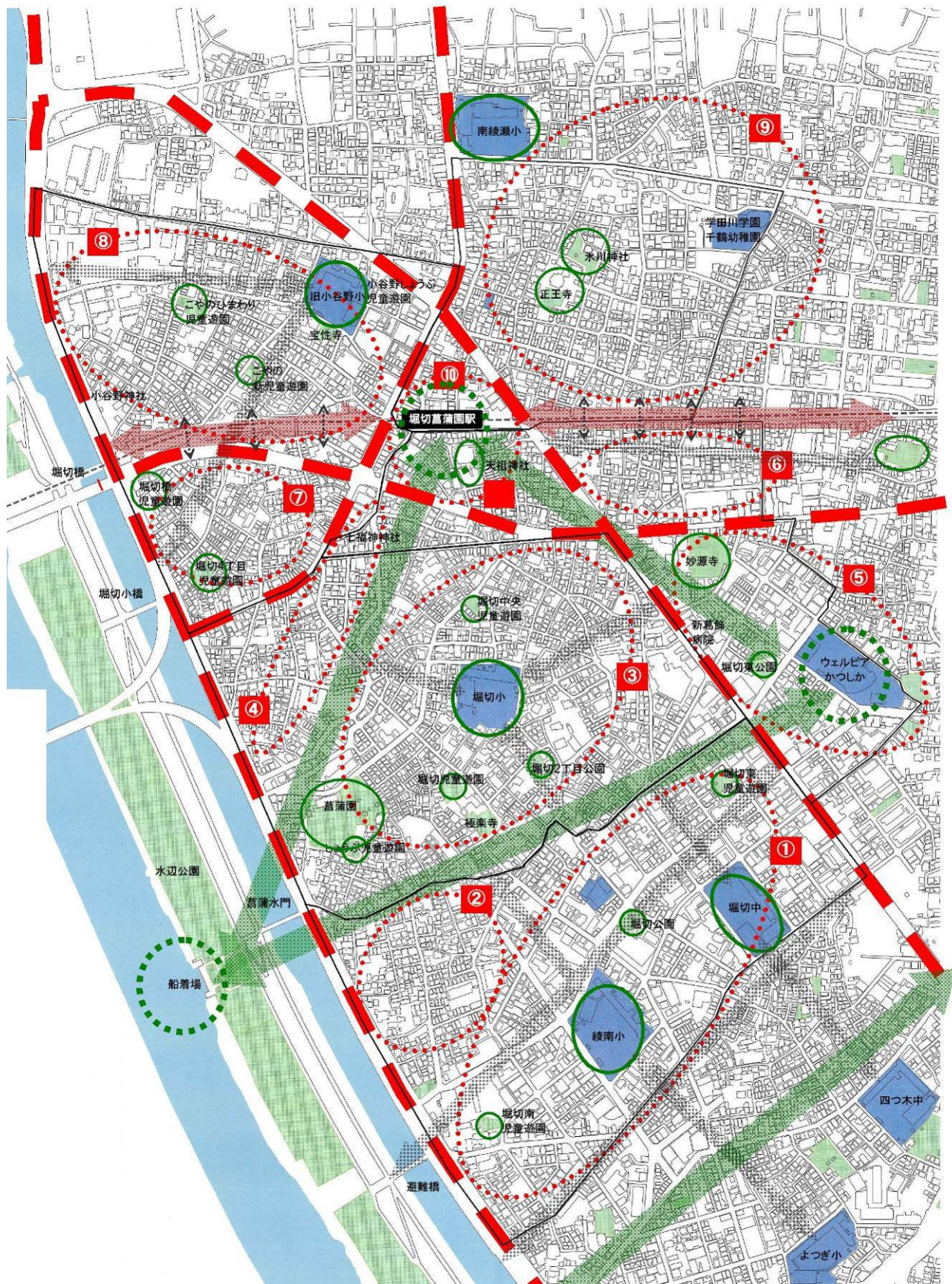
- 建物づくり：
 - ・戸建て住宅の耐震化・不燃化
 - ・建替え困難地区における建替え更新の推進（共同化、各種制度活用等）
- 道路づくり：
 - ・周辺市街地の防災特性に配慮し、ブロック化を図る防災道路の整備
 - ・消防車・救急車が通れる地区内防災道路の整備
- その他：
 - ・医療救護所として他地区からの受け入れを前提とした避難者対策の検討
 - ・防災まちづくりを検討する地元の体制づくり

●駅周辺ブロック

ゾーン⑩：人やモノの流れが集まる防災拠点の形成を図る

- 建物づくり：
 - ・災害に強い商店街の形成
- 道路づくり：
 - ・周辺市街地から駅へのアクセス道路の確保
- その他：
 - ・駅からの東西入口の確保の検討
 - ・人・車両・物資等が集積可能な広場等の整備の検討

《ブロック単位の防災まちづくりの課題図》



地域活性化まちづくり方針

1. 堀切を取り巻く状況と活性化まちづくり

① まちの姿と成り立ち

～昔なつかしい雰囲気・日常生活の安心感／まちが複雑でわかりにくい～



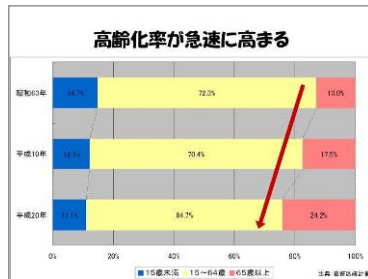
- ① まちの“大規模なつくり変え”がなく、各時代のまちの姿や面影が所々に見られる。
- ② わかりにくさ⇒交通安全や防犯面での安心感(外部から人や車が侵入しにくいため)
- ③ 堀切の成り立ちや歴史を知ると、魅力や個性が見えてくる。まちがわかりやすくなる。
- ④ わかりにくいまま、住民自身が気づかないまま⇒新住民を引き付けにくい／来街者に不親切

問題意識

今の堀切は、まちの古さやわかりにくさが際立っていて、個性や魅力が埋もれ、見えにくくなっている・・・

② まちの住まい手(住民)の状況

～住み続けたいという思い／人口減少・高齢化・単身世帯の増加～



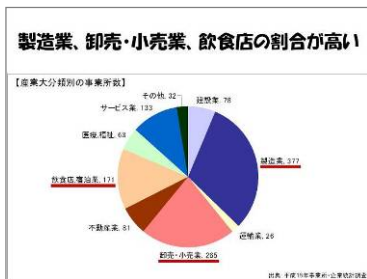
- ① 人口の減少、高齢化の急速な進行。(高齢者は定着/若い世代は堀切から流出)
- ② 「堀切に住み続けたい」という思い。(堀切への愛着=そこで暮らす“人”への愛着)
- ③ 地域活動や日常のコミュニケーションの減少⇒「住民同士のつながりの薄いまち」に
- ④ 地元で買う人、働く人の減少⇒堀切の商工業の低迷

問題意識

若者の減少や高齢化が進んでいくと、地域での活動や住民同士のつながりがうすれ、暮らしにくいまちになってしまう・・・

③ まちのなごい(商工業)の状況

～暮らしに密着した商工業／商店・工場とも減少・勤め人の増加～



- ① 商工業に元気がなくなっている。(事業所数の減少、働く人の減少)
- ② 商店街や町工場など、暮らしと関わりが深い。(しかも、住商工が共存してきた歴史がある)
- ③ 地元で買う場所、働く場所の減少⇒「寝るだけのまち」「自活できないまち」に
- ④ ちょっとした外出や立ち話の機会が減少⇒住民が地域から孤立

問題意識

商工業がなくなると、まちで「買う」「働く」ことができなくなり、人が集ま
ってこない、活力のないまちになってしまう・・・

そこで

堀切ならではの魅力を掘り起こし、それらを顕在化させながら、堀切の活力の源である「人」を元気づける「活性化まちづくり」が必要！！

2. 活性化まちづくりの目標(合言葉)

地域の“暮らしやすさ”につながる活性化

すなわち

⇒堀切を暮らしの舞台とする人(住む人、働く人)が満足できる、
暮らしやすい、暮らして楽しい、暮らし続けられるまちを目指す取組み
(堀切のまちの中で、人が楽しく動きまわっているのが“地域の活性化”)

取組みの姿勢(スタンス)

- 堀切の成り立ちや自然の魅力が感じられる、今のまちの姿を活かすことが大切
- 堀切のなりわいの活性化を、「暮らし」の視点から考えていくことが大切
- 高齢者が暮らしやすい環境づくりと、若い世代が入ってこられる・定着できる環境づくりの両方を考えることが大切
- まずは、住んでいる人が堀切の良さを知ることが大切(外へは自然と広がる)

3. 活性化まちづくりのテーマ(必要なこと、取組みたいこと)

【テーマ1】 多くの人に、堀切の“まちの成り立ち”を伝え、感じさせよう

- 堀切の歴史文化資源やまちの雰囲気背景である「まちの成り立ち」をうまく伝え、感じさせることで、堀切らしい風景や魅力に触れることができるまちにしていこう。

【テーマ2】 堀切の暮らしを支え、豊かにする“なりわい”を根付かせよう

- 堀切の暮らしを支え、人々の活気を高めてくれる「なりわい」を、これからの堀切にも根付かせていくことで、暮らしやすく、活力あるまちにしていこう。

【テーマ3】 “高齢者”も、まちなかで活動し続けられるようにしよう

- 高齢者になっても「まちなかでの活動」を続けられる環境をつくることで、暮らしの楽しさや暮らしがいのあるまちにしていこう。

【テーマ4】 “若い世代”を増やし、定着させていこう

- 堀切を愛する「若い世代」を増やし、定着させていくことで、堀切らしい魅力や活力を伝えていくことができるまちにしていこう。

[テーマ1] 多くの人に、堀切の「まちの成り立ち」を伝え、感じさせよう

まちの成り立ちが、歴史の面影を今に伝え、懐かしさを感じる町並みをつくっている

- 堀切は、河川や水路、駅や商店街などを中心として、路地や曲がりくねった道を残しながら、今のようなまちの姿が形作られてきました。
- こうした「まちの成り立ち」(＝市街地形成の歴史)が、所々に各時代の面影(歴史文化資源)を残し、まち全体に風情と懐かしい雰囲気をつくっています。

そこで…

歴史文化資源やまちの雰囲気の背景である「まちの成り立ち」をうまく伝え、感じさせることで、地域を活性化しよう!

- 堀切らしい風景や魅力に触れることができるまちに
- まちの成り立ちを際立たせることで、まちの「わかりにくさ」の解消も

活性化の
ツボ

こんなものを大切にし、まちに増やしていこう!

成り立ちが感じられる場所

まちの成り立ちや由来が感じられる場所を大切にする

(例)

- 緑道のガーテニング
- 商店街のまちなみ景観の演出

場所にあった賑わい

まちの成り立ちや由来を踏まえ、その場所の特徴を活かした活動・賑わいをつくる

(例)

- 緑道や広場での定期市
- 商店街・商品の魅力づくり

由来を想起させる情報

まちの成り立ちや由来を想起させ、まちの宣伝にもなる堀切情報を見せる

(例)

- 通りの「呼び名」づけ
- 名所の解説板づくり

[テーマ2] 堀切の暮らしを支え、豊かにする「なりわい」を根付かせよう

まちのなりわいが人々をひきつけ、まちなかに賑わいを生んでいた

- 堀切では、通りに軒を連ねる商店や中小規模の町工場などが、地元の「買物の場」「働く場」となり、まちなかでの暮らしを支えていました。
- こうした「なりわい」(＝商工業の営み)により、人々が自然とまちに集まってきて、人々の活気がまちなかの賑わいを盛り立てていました。

そこで…

堀切の暮らしを支え、人々の活気を高めてくれる「なりわい」を、これからの堀切にも根付かせていくことで、地域を活性化しよう!

- 暮らしやすく、活力あるまちに
- 暮らしとなりわいとの関係を見直すことで、商工業の活性化も

活性化の
ツボ

こんなものを大切にし、まちに増やしていこう!

地域が誇れるもの

つくる人、使う人、売る人、買う人の誰もが誇れるもの、まちの売りになるものを、地域で育ていく

(例)

- 地場産業のPR
- 堀切ブランドづくり

出会う場

地域住民が自然と集まり、出会いと会話を楽しめる場をつくる

(例)

- 緑道や広場での定期市
- 空き店舗の活用

頼れるサービス

地域で暮らす人が安心して利用できる(利用しやすいと思ってくれる)、生活目線のサービスを増やす

(例)

- 商店街での御用聞きサービス
- 葛飾元気野菜の販売

[テーマ3] 高齢者も、まちなかで活動し続けられるようにしよう

住民同士がまちなかを出歩き、顔を合わせることが、地域への愛着につながっている

- 堀切では、地域住民がまちなかを出歩き、お互いに顔を合わせ、会話し、ときに祭やイベントに参加する中で、地域のつながりを楽していました。
- こうした「まちなかでの暮らしや活動」が、堀切の「人」「地域」に対する愛着を深め、「堀切に住み続けたい」という思いにつながっています。

そこで…

高齢者になっても「まちなかでの活動」を続けられる環境をつくることで、地域を活性化しよう！

- 暮らしの楽しさや暮らしがいのあるまちに
- まちなかでの活動を増やすことで、まちの安全・安心の向上も

活性化の
ツボ

こんなものを大切にし、まちに増やしていこう！

高齢者にもやさしい道

高齢者になっても安心して気軽に
出歩けるよう、歩きやすく、休憩し
やすく、散策を楽しめる道を増やす

(例)

- 商店街へのベンチの設置
- 植栽・ガードレールの改善

まちへ出るきっかけ

誰もがまちなかで生き活きと活
動できるように、まちでの仕事・
役割・目的をつくる

(例)

- 緑道のガーテニング(手入れ)
- 防犯パトロール

楽しさの拠点

地域住民が気軽に集まってくる
ような、楽しさの拠点をつくる

(例)

- 空き店舗の活用
- 地域が一体となれる祭

[テーマ4] 若い世代を増やし、定着させていこう

今の堀切は、若い世代が定着しにくい状況になっている

- 堀切では、「若い世代が住めない・入ってこない」「子どもが減ってきている」「後継者がいない」といったことが、まちの活性化での大きな課題となっています。
- 若者や後継者などの「若い世代」は、堀切の地域活動やなりわいの担い手であり、堀切の良さを次の世代へつないでいく世代です。

そこで…

堀切を愛する「若い世代」を増やし、定着させていくことで、地域を活性化しよう！

- 堀切らしい魅力や活力を伝えていくことができるまちに

活性化の
ツボ

こんなものを大切にし、まちに増やしていこう！

若者の居場所

地域の中に、若い世代が住み、働
き、活躍できる場所や機会を増や
す

(例)

- 堀切ブランドづくり(若者と)
- 空き店舗の活用

きれいな町並み

若い人や外から来た人に、いいま
ちだと思ってもらえるよう、きれ
いな場所、手入れの行き届いた場
所を増やす

(例)

- 町並みのライトアップ
- 駅舎の美化

魅力を伝える活動

堀切を訪れ、良さを知ってもらえ
るよう、堀切の魅力を伝える活動
を増やす

(例)

- 地域住民とのまちあるきツアー
- 堀切のガイドブックづくり

4. 活性化まちづくりの実現に向けて(取組みの進め方)

4-1. 活性化まちづくりの方向性(活性化の取組みで、どんなまちをつくるのか)

●歩いて暮らせるまちなかをつくる ~回遊性+住まいづくり~

- 幹線道路で囲まれ、自動車の喧騒や危険から守られた環境をいかし、自動車に依存せず、歩いて楽しく活動できるまちなかにする。

4-2. 活性化まちづくりの進め方(活性化の取組みでは、どこに重点をおくのか)

●まちの魅力をつなぐ ~骨格づくり~

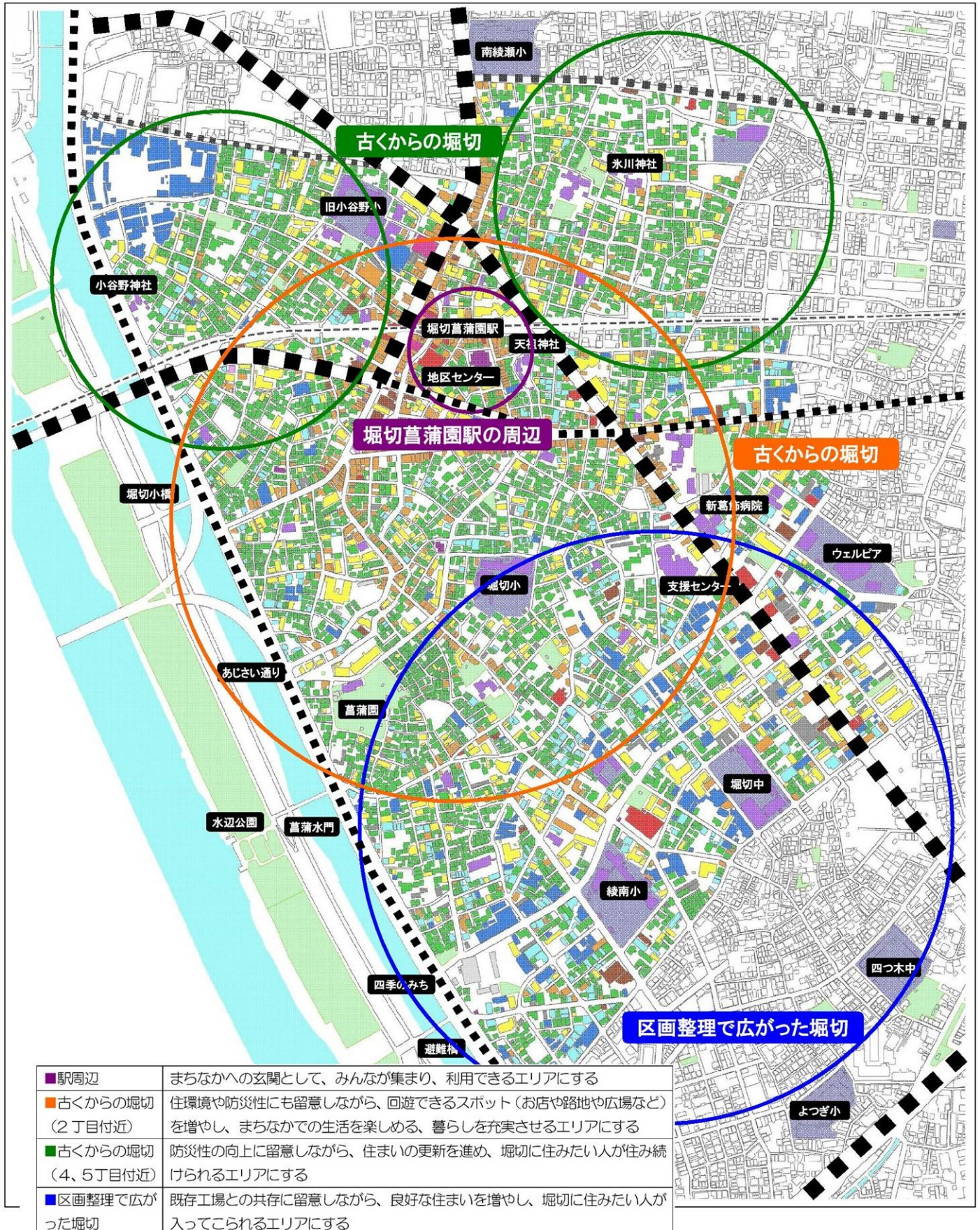
- 「駅」「河川敷」と「まちなか」とのつながりを取り戻し、堀切のまちの魅力や個性を際立たせることで、まち全体の価値を戦略的に高めていく。

●活性化の取組みを広げる ~人づくり~

- 堀切のまちのことを調べ、伝えることで、まちへの関心を高めていく。
- 「活性化グループ」「活性化まちづくり方針」を地域へPRし、取組みを盛り上げていく。(地域の人たちの自発的な取組み、活性化グループの仲間づくり)
- 他の地域団体とのネットワークをつくる(まち懇・商店会・行政など)。
- 取組みの手本を見せる(あじさい・ベンチ・まちあるきツアーなど)

●まちなかを、歩いて暮らしやすい環境にしていく(回遊性+住まいづくり)

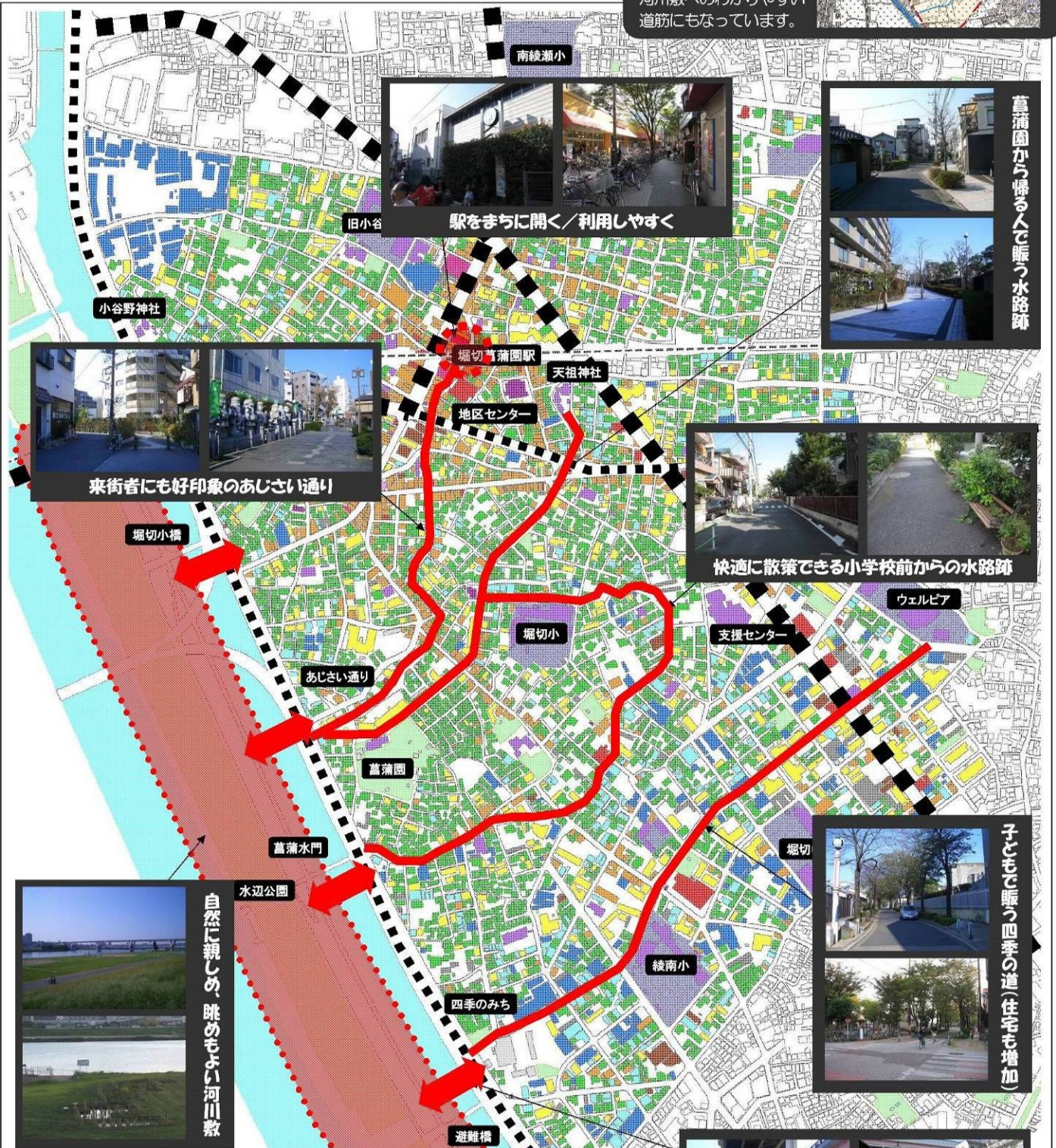
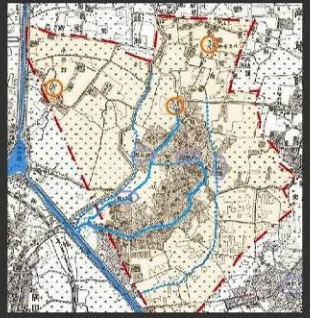
幹線道路で囲まれ、自動車交通の喧騒や危険性から守られた環境を維持し、自動車に依存せず、歩いて楽しく活動できるまちなかにする。



●まちの魅力をつなく ~骨格づくり~

「駅」「河川敷」と「まちなか」とのつながいを取り戻し、堀切のまちの魅力や個性を際立たせることで、まち全体の価値を戦略的に高めていく。

堀切は、水路を中心にまちが広がっており、その成り立ちが残る今のまちの姿は、堀切固有のものであります。
現在も、水路跡が魅力的な場所になることで、まち全体に活気や賑わいが広がっています。また、河川敷へのわかりやすい道筋にもなっています。



菖蒲園から帰る人で賑う水路跡

駅をまちに開く／利用しやすく

来街者にも好印象のあじさい通り

快適に散歩できる小学校前からの水路跡

自然に親しめ、眺めもよい河川敷

子どもで賑う四季の道(住宅も増加)

河川敷へのアクセスの改善

■ 駅	「まちの玄関」としてまちへ開く。「まちの顔」としてきれいにする。徒歩や自転車でも利用しやすくする。
■ まちなか	堀切の魅力や歴史資源などが集中する水路跡や商店街を「まちなかの骨格」として際立たせる。(ソフトとハードの重ね合わせ)
■ 河川敷	「オープンスペース」としての利用度を高める。「河川敷ならではの」魅力(自然や見晴らし)を活かす。アクセスを改善する。

京成本線荒川橋梁架替事業に伴うまちづくりへの取り組み方針

■本方針の主旨

本方針は、堀切地区における今回のまちづくり活動のきっかけとなった京成本線荒川橋梁架替事業を「地域としてどのように受け止め、対応すべきか」という大きな問題に対して、その考え方と取り組みのあり方について、3カ年にわたり協議・検討してきた成果の要点をとりまとめたものである。堀切地区が直面する問題へ地域としての確に対応していくために、本方針の内容を地区全体の課題として共有し、具体的な取り組みを進めていきたい。

■基本的な考え方

国土交通省が計画している京成本線荒川橋梁架替事業は、荒川の治水対策として不可欠な事業であるが、一方、周辺住民の生活に大きな影響がもたらされることが予想される。そのため、事業実施にあたっては周辺地域への最大限の配慮を求めると同時に、周辺地域においてもこれを機に地域の様々な問題の解決に向けたまちづくりに積極的に取り組み、この事業の機会を地域のために最大限に活用していくことを目指す必要がある。



出典：国土交通省パンフレットより

■ 3つの取り組み方針

京成本線荒川橋梁架替事業の機会を地域のためには、以下の3つの取り組みが必要である。この3つの取り組みはそれぞれ独立して取り組むのではなく、相互に関連付けながら、同時並行で取り組んでいく必要がある。

1. 京成本線荒川橋梁架替事業に対する地域への配慮・協力の要請

京成本線荒川橋梁架替事業の機会を、地域のより良い環境づくりを進めるきっかけとしていくために、国土交通省および京成電鉄に対して以下の事項を要請し、周辺地域および堀切地区全体のまちづくりへの最大限の配慮と協力を促す。

(1) 橋梁～駅までの区間の全面高架化

現在の堀切地区は線路の土盛によって南北に分断されており、住民の往来や地区全体の一体的なコミュニティ形成の支障となっている。今回の事業に併せて少なくとも橋梁から駅までの区間は全面的に高架にし、南北の見通しと円滑な往来を確保する。

(2) 地域との協議による高架下の効果的な活用方策の検討

線路の高架化により生じる高架下の空間は、駅周辺の交通問題を解決するための駐車場・駐輪場や、駅周辺街区の再整備にあたっての店舗移転用地等、地域のまちづくりと連動した様々な活用方策が考えられる。京成電鉄のみならず、地域にとってもより効果的な活用が図れるよう、両者の十分な協議により具体的な活用方策を検討していく。

(3) 新たな線路の北側への側道用地の確保

堤防のかさ上げにより線路の高さは現在よりも高くなるため、新たな線路の北側には、日照や騒音の問題を避けるための緩衝空間が必要になる。また、線路北側の区域は東西方向の生活道路が不足していることから、その緩衝空間は線路の側道として整備することが期待される。地域のまちづくりにおいて、その緩衝空間となる側道を円滑に整備できるよう、あらかじめ橋梁架替事業の一環として用地を確保しておく。

(4) 現在の線路敷跡地の「まちづくり用地」としての活用

橋梁架替に伴う線路の移動により、現在の線路敷は空地となる。その空地は、当面は多目的の広場などの暫定整備を行い、将来的には、地域の話し合いによりまちのニーズに応じた活用を図る「まちづくり用地」として位置づける。

(5) 関係住民が地域に住み続けられる事業展開を図る

橋梁架替事業により移転しなければならなくなる住民が、事業後も地域に住み続けられるよう、地域のまちづくり活動とも連携して、地域内で十分な代替地や代替住宅・店舗が確保されるような事業展開を図る。

2. 沿線地域におけるまちづくり活動の展開

京成本線荒川橋梁架替事業による直接の影響を受ける堀切四丁目の区域には、この事業への対応以外にも、防災対策や商店街活性化対策をはじめ様々なまちづくりの課題がある。これを機に橋梁架替事業との効果的な連携を図りながら、地元住民が中心となってそれらの課題の解決に向けたまちづくり活動を展開し、地区全体としても、その活動に積極的な支援・協力をしていく。

《堀切四丁目地区における主なまちづくり課題》

- 線路の南北や地区内の各種拠点を結ぶ道路ネットワークの形成
- 救急車・消防車が通れる地区防災道路づくり
- 主要な道路・歩道のバリアフリー化への取り組み
- 旧小谷野小学校跡地活用方策の検討（コミュニティ施設・防災拠点等）
- 商店街における高齢者等のコミュニケーションの場づくり
- 多世代の参加・協議による「まちの連帯感」づくり

3. 駅周辺の再整備と駅の高架化への取り組み

毎年、堀切菖蒲園を訪れる多くの観光客を迎える堀切地区にとって、駅は地区の“顔”となるべき存在である。しかし、現在の駅は土盛で出入口も1箇所しかなく、周辺市街地とのつながりがあまり良くないばかりか、南北の街区とのつながりを分断する要素のひとつになっている。また、駅前広場もなく周辺の交通環境も問題となっている。

京成本線荒川橋梁架替事業の実施を機に、線路の高架化により生じる高架下の空間を有効に活用しながら、駅周辺街区の再整備に取り組み、併せて京成電鉄との協議・協力により駅舎の改修と高架化の実現を図る。

《当面の取り組み》

- 駅前買い物空間の整理（駐輪環境の改善など）
- 小規模店舗の集約・共同化などによる快適な歩行・買い物環境の整備
- 高架下の活用による車寄せ等の整備
- 駅の一部改修（車寄せとの接続、耐震性とバリアフリーの強化など）

《将来的な目標》

- 駅周辺の再開発による“堀切らしい顔”づくり
- 駅の高架化と改札の増設による周辺市街地とのつながりの改善

■京成本線荒川橋梁架替事業に伴うまちづくりへの取り組み方針図

■橋梁架替に伴うまちづくりの3つの方針

1. 京成本線荒川橋梁架替事業に対する地域への配慮・協力の要請
2. 沿線地域におけるまちづくり活動の展開
3. 駅周辺の再整備と駅の高架化への取り組み

* 関係住民が地域に住み続けられる事業展開を図る

《沿線地域におけるまちづくり活動の展開》

- 道路ネットワークの形成（防災と日常）
- 道路・歩道のバリアフリー化
- 旧小谷野小学校跡地活用方策の検討
- 商店街の活性化 など

新たな線路の北側への側道用地の確保

橋梁架替の概ねのルート

川とのつながり

南北がつながる

橋梁～駅までの区間の全面高架化

地域との協議による高架下の効果的な活用方策の検討

現在の線路敷跡地の「まちづくり用地」としての活用

旧小谷野小の活用

駅前環境の改善

《駅周辺の再整備と駅の高架化への取り組み》

- 快適な歩行・買い物環境の整備
- 高架下を利用した車寄せ等の整備
- 駅の一部改修（耐震、バリアフリー）

《将来の目標：駅周辺の再開発》

- 堀切らしい“顔づくり”
- 駅の高架化と改札の増設

